

丹鶴叢書

前參議教長卿集 上

093.1

2006

佛教大学図書館



2005494585



春のあけぼのの霞のうららかに
 花の散るるをしのびて
 春のあけぼのの霞のうららかに
 花の散るるをしのびて
 春のあけぼのの霞のうららかに
 花の散るるをしのびて
 春のあけぼのの霞のうららかに
 花の散るるをしのびて
 春のあけぼのの霞のうららかに
 花の散るるをしのびて

新十載卷上 源後頼朝目

春のあけぼの

句題百三

五七

春のあけぼのの霞のうららかに
 花の散るるをしのびて
 春のあけぼのの霞のうららかに
 花の散るるをしのびて
 春のあけぼのの霞のうららかに
 花の散るるをしのびて
 春のあけぼのの霞のうららかに
 花の散るるをしのびて
 春のあけぼのの霞のうららかに
 花の散るるをしのびて

Handwritten text in cursive script, likely a title or introductory line.

Handwritten text in cursive script, continuing the passage.

Handwritten text in cursive script, continuing the passage.

雲陽園路

Handwritten text in cursive script, starting with a section header.

Handwritten text in cursive script, continuing the passage.

Small handwritten characters at the bottom of the page.

Handwritten text in cursive script, continuing the passage.

始中寫

Handwritten text in cursive script, starting with a section header.

Handwritten text in cursive script, continuing the passage.

Handwritten text in cursive script, continuing the passage.

Handwritten text in cursive script, continuing the passage.

同院に在りては

當の右よりしては
しむきの糸は中を
大宮中納言に
通ふ

其中のいれは
濱辺院に
在り

當の
右よりしては

同院に在りては

當の右よりしては

苑中寫 句題百

同院に在りては

當の右よりしては

若菜とて

同院の右よりしては

新古今春上

幾とせよらふしははなれん梅の心春の院位の時

老人採若菜

句題百首

おたしうらなはを
冬枯しきもの梅の下もさふさふしつる梅の心より

讚岐院位の時時のふさふさうらなをよ
めさ

はなれん梅の心よりさふさふと梅の心より
ねな一巻と

ふゆさう清きあきさる谷ふさふさう梅の心より
をよめさ

をよめさ

冬代の心より梅の心より梅の心より梅の心より

春まき梅の心より梅の心より梅の心より梅の心より

洞底残雪

句題百首

谷ふさふさう梅の心より梅の心より梅の心より梅の心より

梅花ふさふさう梅の心より梅の心より梅の心より梅の心より

雪の心より梅の心より梅の心より梅の心より

讚岐院位時ふそよ柳を

志ん高のしつぬまかゝる母もさむかふもさむかふもさむかふも
同院のおもひもさむかふもさむかふもさむかふもさむかふも

春の海もさむかふもさむかふもさむかふもさむかふもさむかふも
柳被深雨

さむかふもさむかふもさむかふもさむかふもさむかふもさむかふも
志ん高のしつぬまかゝる母もさむかふもさむかふもさむかふも
柳臨池あり 句歌玉

はるの岸の桜のさむかふもさむかふもさむかふもさむかふも
讃岐院位時ふそよ柳を

志ん高

志ん高のしつぬまかゝる母もさむかふもさむかふもさむかふも
入心尋花歌

花のさむかふもさむかふもさむかふもさむかふもさむかふも
讃岐院位時ふそよ柳を
梅をさむかふも

志ん高のしつぬまかゝる母もさむかふもさむかふもさむかふも
同院のおもひもさむかふもさむかふもさむかふもさむかふも

春の海もさむかふもさむかふもさむかふもさむかふもさむかふも
志ん高のしつぬまかゝる母もさむかふもさむかふもさむかふも
梅をさむかふも

澄波院位

杜若繞石

花はひのあふ

杜若繞石 句題百首

讚波院百首

あはれ

鄭躑躅 句題百首

涼

三日桃 句題百首

不登のたのしみ

讚波院位の事

松林

同院のふさ

あはれ

蘇花似雪 句題百首

あはれ

泉波寺

水草綠珠

春閑携琴

暮春歸鴈

松風

春閑携琴

暮春歸鴈

松風

春閑携琴

暮春歸鴈

松風

春閑携琴

春閑携琴

暮春歸鴈

松風

春閑携琴

暮春歸鴈

松風

春閑携琴

暮春歸鴈

松風

春閑携琴

~~~~~

初庚子の日の御書  
山家三月書

月御書

小二月書

句類

~~~~~

前参議教長卿集

夏衣

瀧院位
更衣を

限あきと花の袂をぬき
後袂をぬき

袂をぬき
更衣

~~~~~







野鳥は知れぬ数に  
 付てはしきも  
 歌に  
 夕郎

鳥

柿中

子

故郷

留客

馬上

水鶏

水鶏

新統古今夏

~~~~~

獨步水鶏

~~~~~

月夜多鷗

~~~~~

兩中多鷄

~~~~~

連水水雞

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

同院百間の鳥を回す

~~~~~

~~~~~

~~~~~

五日普蒲

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~



五月五日雨  
連日五月雨

五月五日雨  
連日五月雨

五月五日雨  
連日五月雨

五月五日雨  
連日五月雨

五月五日雨  
連日五月雨

東路五月雨

句題百首

東路五月雨  
句題百首

東路五月雨  
句題百首

東路五月雨  
句題百首

東路五月雨  
句題百首

盧橋まじり

丹鶴の橋のまじり  
かきまじり  
かきまじり  
かきまじり  
かきまじり

藪端管火

内巻百三

かきまじり  
かきまじり  
かきまじり  
かきまじり  
かきまじり

海邊管

かきまじり  
かきまじり  
かきまじり  
かきまじり  
かきまじり

社頭管

かきまじり  
かきまじり  
かきまじり  
かきまじり  
かきまじり

遠村牧遣火

句題百三

かきまじり  
かきまじり  
かきまじり  
かきまじり  
かきまじり

紅のさほくくはあはれなむしむかおののむら

同院十五本と 聖雀麦と

笑しあはれなむしむかおののむら

あはれなむしむかおののむら

なまののむしむかおののむら

と見聖雀麦 夕色ふら

あはれなむしむかおののむら

泉後序室よりくはは皆聖雀麦と夕色と

あはれなむしむかおののむら

あはれなむしむかおののむら

聖雀麦 續 夕辭

あはれなむしむかおののむら

昔 夕聖雀麦

あはれなむしむかおののむら

慶く 聖雀麦

春風よもあはれなむしむかおののむら

讃岐院位の唐討の百その蓮のさ

梅梅ちあはれなむしむかおののむら

あはれなむしむかおののむら

あはれなむしむかおののむら

あはれみの池に花を散らして  
氷室の雪を融かす

あはれみの池に花を散らして  
同院に花を散らして

あはれみの池に花を散らして  
對泉亭夏 句題百首

あはれみの池に花を散らして  
避暑

あはれみの池に花を散らして  
納涼の夕涼

22

十載夏  
あはれみの池に花を散らして

あはれみの池に花を散らして  
風を散らして

あはれみの池に花を散らして  
林中趁涼生

あはれみの池に花を散らして  
對月恨宵短

あはれみの池に花を散らして  
泉邊眺月

あはれみの池に花を散らして



此書

此書之序  
一曰和板

日曆六月 校

此書之序  
一曰和板

400 21

